

2009/06/22 (mon)

S.C.WORKS 今週のスタディ！

【ヘッドライン】

- 1) 「コンビニに災害情報」
- 2) 「内装塗料に漆喰 インフル感染低減」
- 3) 「環境首都ロンドン」

1) 「コンビニに災害情報」

日立情報システムズなどは地方自治体の情報をコンビニ店頭にて配信する事業に乗り出す。デジタルサイネージの普及に向けて、まずは大型ディスプレイ付きコピー機に随時配信予定。都心部を中心に日本中に広がるコンビニ網を行政情報配信に利用する動きが広がりそうだ。今月中にも am/pm の一部で実験を試みる。年内に東京都を中心とした 500 店舗に展開予定。

大雨などの被害が想定される場所の地図や避難所の変更などを案内するなど災害情報を配信。また、平時は地域情報の配信にも活用し、近隣の観光情報の検索、外国語のデータベースを用いて外国人への情報提供も予定している。他の大手コンビニにも地域との関係を深め集客増にも繋がるとして導入を働きかける。

大型モニターでの配信が普及すれば、情報として目に入りやすくデジタルサイネージの普及を促せそうだ。今後の大きな展開を期待したい。

2) 「内装塗料に漆喰 インフル感染低減」

関西ペイントは15日、インフルエンザウイルスの感染力を大幅に低減する漆喰を使った内装用塗料「アレスシックイ」改良版の発売を始めたと発表した。

漆喰の持つ優れた機能を維持しながら、塗装表面に水をはじく性質を加え、汚れにくく洗浄しやすい塗料を完成させた。

漆喰は、消臭、抗菌のほか、吸湿、二酸化炭素（CO₂）を吸収する効果がある。強アルカリ性を持つ表面の水酸化カルシウムが、インフルエンザウイルスを吸着する性質があることも分かり、同社によると、強毒性の鳥インフルエンザウイルスを30分間で99.6%低減することに成功した。新型インフルエンザのウイルスにも同様の効果が期待できるという。

価格は4キロ1万5000円で、「教育、医療機関や養護施設などに売り込む」（同社）考えだ。

日本は「菌」に対して敏感で、「抗菌」「除菌」効果のある商品を求める傾向にあるが、あまりに敏感になりすぎて抵抗力が弱くなるのも困りものだといつも思う。

しかし、”老人ホームでの集団感染”など、抵抗力の弱い人たちが集まるところで感染症が発生するとすぐに広がってしまうため、病院や養護施設、不特定多数の人が集まる会館などではこうした対策というのも有効なのではないかと思う。

3) 「環境首都ロンドン」

イギリスのロンドン市長のボリス・ジョンソンは「ロンドンを環境に優しい首都」にしようという政策を掲げている。環境を悪化させる原因として、排気ガスをたれ流している交通手段をやり玉に挙げて、環境に負荷のかかりにくい交通手段の普及を強力に主張している。

フランスの首都パリで2007年から実施されている公共レンタル自転車制度と同じような制度を10年から始める方針を明らかにし、電気自動車の貸出制度の導入も検討。電気自動車は市内各所に配置し、有料で一般に貸し出す計画で、市の作業部会が自動車業界と電気自動車の生産増強をめぐり協議を進めている。

温暖化だけでなく、大気汚染の原因とも言われる車の排気ガス。公共のものだけでなく、一般的な交通手段の見直しからのクリーンな都心環境づくりに注目が集まっている。